

授業科目名： 体育方法学・実習（器械運動）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 平塚 卓也 担当形態：単独			
科 目	①教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育） ②教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	①教科に関する専門的事項 ・体育実技 ②・体育					
授業のテーマ及び到達目標 <p>1. 器械運動に関する基礎的な動きから発展的な動きを習得し、見本として実施することができるようになる。2. 動きについての技術的な内容や段階的な学習方法を理解し、他者に説明できるようになる。</p>						
授業の概要 <p>マット運動、鉄棒運動、とび箱運動の主に学習指導要領（保健体育）に掲載されている基本技から発展技の技能を習得するとともに、それらの段階的な指導方法を理解する。</p>						
授業計画 <p>第1回：ガイダンス 授業の内容と進め方についての説明</p> <p>第2回：マット運動 回転系接転技群（前転、開脚前転、伸膝前転、跳び前転）</p> <p>第3回：マット運動 回転系接転技群（後転、開脚後転、伸膝後転）</p> <p>第4回：マット運動 技巧系平均立ち技群（頭倒立、補助倒立、倒立）</p> <p>第5回：マット運動 回転系接点技群（倒立前転、後転倒立）</p> <p>第6回：マット運動 回転系ほん転技群（首はねおき、頭はねおき）</p> <p>第7回：マット運動 回転系ほん転技群（側方倒立回転、側方倒立回転1/4ひねり跳び）</p> <p>第8回：マット運動 回転系ほん転技群（前方倒立回転跳び）</p> <p>第9回：マット運動 第2回～8回までの振り返りと実技テスト</p> <p>第10回：跳び箱運動 切り返し系</p> <p>第11回：跳び箱運動 回転系</p> <p>第12回：跳び箱運動 第10回、第11回の振り返りと実技テスト</p> <p>第13回：鉄棒運動 支持系前方支持回転技群</p> <p>第14回：鉄棒運動 支持系後方支持回転技群</p> <p>第15回：鉄棒運動 第13回、第14回の振り返りと実技テスト</p>						
テキスト <p>特になし（必要に応じて資料を配布する）</p>						

参考書・参考資料等

三木四郎, 加藤澤男, 本村清人編著 (2006) 中・高校器械運動の授業づくり. 大修館書店.

三木四郎 (2015) 器械運動の動感指導と運動学. 明和出版.

学生に対する評価

技能達成度（実技テスト）35%、知識・理解（小テスト）50%、

授業に対する取組み意欲 15%

授業科目名： 体育方法学・実習（陸上）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 井上恒志郎 担当形態：単独			
科 目	①教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育） ②教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	①教科に関する専門的事項 ・体育実技 ②・体育					
授業のテーマ及び到達目標：中学校、高等学校の保健体育教員が陸上競技を指導していく上で基盤となる知識や教養、指導法に関する理論を理解する。 さらに実技を通して技能を身につけ、理解を深める。						
授業の概要：スポーツ種目としての陸上競技の特性を理解し、効果的な指導が行えるための知識を身につけるために、運動学、生理学、コーチング学など多面的な観点から陸上競技について学習を進めていく。毎時間、授業終了時にリアクションペーパーを実施する。最終的には授業で学習したことを探まえてレポートを提出する。						
授業計画 第1回：陸上競技の成立と発展 第2回：陸上競技の競技特徴と種目別特性 第3回：発育発達と陸上競技 第4回：パフォーマンス決定要因 第5回：トレーニング理論①：基本的な考え方 第6回：トレーニング理論②：各論 第7回：陸上競技とスポーツ傷害 第8回：短距離走の特性理解と疾走技術の理解、習得 第9回：ハードル走の特性理解と技術の習得 第10回：走り幅跳びの特性理解と技術の習得 第11回：走り高跳びの特性理解と技術の習得 第12回：投げ技術の理解、習得と記録測定法の習得 第13回：長距離走の特性理解と疾走技術の理解、習得 第14回：リレー種目の特性理解、バトンパス技術の理解、習得 第15回：リレー（疾走、バトンパス技術の習得、記録測定法の習得）						
テキスト 特になし（必要に応じて掲示、配布する）						

参考書・参考資料等

日本陸上競技連盟『陸上競技コーチングブック』大修館書店, 2022

日本陸上競技学会『陸上競技のコーチング学』大修館書店, 2020

学生に対する評価

運動生理学：リアクションペーパー（50%），レポート（50%）

授業科目名： 体育方法学・実習（水泳）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 奥野景介 担当形態：単独			
科 目	①教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育） ②教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	①教科に関する専門的事項　・体育実技 ②・体育					
授業のテーマ及び到達目標						
<p>本科目は、個人種目、競争的及び克服型スポーツとしての水泳を通して、基礎的運動能力（平衡性、巧緻性及び全身持久力性）を養い、心身の不調（ストレス）に対応できる能力を養うこととする。同時に、水泳によって、心身の調和的な発達を図り、生涯にわたるスポーツ習慣を形成・定着させる視点に立って、スポーツの意義や価値を体感させる。また、各種泳法の習得によって、走・跳・投と並び必要な体力要素である泳力を向上させ、運動原理の理解を深めるようアプローチする。</p> <p>到達目標は、クロール、背泳ぎの正確な技能を身につけ、水泳水中運動に関する理解を深めるとともに水泳を通してスポーツの意義や価値を正しく伝える指導力を身につけることである。なお、本科目で行う実技テストの結果は、日本水泳連盟の定める「ニチレイ泳力検定」の基準に照合し、該当する資格級を付与する。</p>						
参考URL (http://www.swim.or.jp/badgetest/index.html)						
授業の概要						
クロール及び背泳ぎの水泳技能を習得し、水泳水中運動に関する理解を深める。						
授業計画						
第1回：ガイダンス						
第2回：水泳の意義、特性、歴史						
第3回：クロールの技術解説						
第4回：水泳の基本（浮く、沈む、進む）クロールの基礎技術（キック）						
第5回：クロールの基礎技術（プル）						
第6回：クロールの基礎技術（コンビネーション）						
第7回：クロールの総合練習、ターン（実践技術）						
第8回：クロール実技テスト（実践技術）						
第9回：背泳ぎの技術解説						
第10回：背泳ぎの基礎技術（キック）						
第11回：背泳ぎの基礎技術（プル）						
第12回：背泳ぎの基礎技術（コンビネーション）						

第13回：背泳ぎの総合練習、ターン（実践技術）

第14回：背泳ぎ実技テスト（実践技術）

第15回：競泳競技規則と審判法

定期試験 なし

テキスト

DVD完全レッスン！水泳4泳法（日本文芸社）奥野景介著

5つのチカラで強くなる 水泳のメザトレ！（高橋書店）奥野景介監修

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

授業への取組・振返り50%、実技テスト50%

授業科目名： 体育方法学・実習（バスケットボール）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 新本 惣一朗、慶徳 克二 担当形態：複数・オムニバス			
科 目	①教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育） ②教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	①教科に関する専門的事項 ・体育実技 ②・体育					
授業のテーマ及び到達目標						
<p>本講義は、バスケットボールの特性を理解し、個人的及び集団的技能を習得しながら、獲得した技能の段階に応じてルールを工夫した発展段階的ゲームへと展開させていく事とその指導方法について習得することを目標とする。</p>						
授業の概要						
<p>本講義では、バスケットボールの特性を理解し、基礎技術および特有の動作やルールを学習しながら、運動面だけでなく、ゲームを通して、規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得する。授業の前半では、主に基盤的なスキルの習得、後半においてはゲームを中心に戦術やチームプレーの重要性を理解しながら、新たなバスケットボールの楽しさを体験してもらう。</p>						
授業計画						
第1回：バスケットボールの概説、歴史、ルールの理解（担当：新本）						
第2回：バスケットボールの特性理解とボール慣れ運動（担当：新本）						
第3回：個人技能としてのシュート、ドリブル、パスワーク技能の習得（担当：新本、慶徳）						
第4回：個人技能としてのフットワーク、フェイントワーク技能の習得（担当：新本、慶徳）						
第5回：集団的技能としての速攻技能の習得（担当：新本、慶徳）						
第6回：集団的技能としてのセットオフェンス技能の習得（担当：新本、慶徳）						
第7回：集団的技能としてのマンツーマンディフェンス技能の習得（担当：新本、慶徳）						
第8回：集団的技能としてのゾーンディフェンス技能の習得（担当：新本、慶徳）						
第9回：個人及び集団技能のスキルチェック（担当：新本、慶徳）						
第10回：競技会運営企画と審判法（担当：新本）						
第11回：トーナメント方式によるゲーム（基本スキル）（担当：新本、慶徳）						
第12回：トーナメント方式によるゲーム（応用スキル）（担当：新本、慶徳）						
第13回：トーナメント奉仕によるゲーム（実践スキル）（担当：新本、慶徳）						
第14回：ゲーム分析（担当：新本、慶徳）						
第15回：第1回～第14回の内容を含んだスキルチェックと評価のフィードバック （担当：新本、慶徳）						
定期試験は実施しない。						

テキスト

特になし（必要に応じて掲示、配布する）

参考書・参考資料等

バスケットボール指導教本「改訂版」上巻

公益財団法人日本バスケットボール協会編 大修館 ISBNコード 9784469267624

学生に対する評価

授業中の意欲と態度および技能についての形成的評価（50%）、レポート内容（50%）

授業科目名： 体育方法学・実習（バレーボール）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 熊野晃三 担当形態：単独			
科 目	①教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育） ②教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	①教科に関する専門的事項 ・体育実技 ②・体育					
授業のテーマ及び到達目標：中学校、高等学校の保健体育科教員として必要なバレーボールの基礎知識と基本技術の習得を図る。パス、レシーブ、サーブ、スパイク、ブロック等のバレーボールに係る諸技術の指導ポイントを理解するとともに、さまざまな練習を通じて各自の基本技能を高める。さらに、ゲームにおける各々の役割を理解し、それらをゲームの中で実践するとともに、バレーボールを指導する力を身につけていく。						
授業の概要：バレーボールについての理解を深めるとともに、必要とされる基本的な技能を実技を通して身につけられるよう、段階的・系統的に学習を進めていく。加えて、バレーボールのルールを学ぶとともに、学習の仕上げとして実践的なゲームを行い、審判や大会運営も体験する。さらに、ソフトバレーボールの基本技術とルールについても実践を通して学ぶ。授業中は適宜、グループワーク等により、指導技術向上のための学び合いを行い、授業終了時には簡単な振り返りも行う。						
授業計画 <ul style="list-style-type: none"> 第1回 授業のガイダンス 授業の内容と進め方についての説明、バレーボールの歴史と概要 第2回 パスの技術の習得1 オーバーハンドパスの理論と実習 第3回 パスの技術の習得2 アンダーハンドパスの理論と実習 第4回 スパイクの技術 スパイクの理論と実習 第5回 ブロックの技術 ブロックの理論と実習 第6回 サーブの技術 サーブの理論と実習 第7回 サーブレシーブの技術 サーブレシーブの理論と実習 第8回 サーブレシーブのフォーメーションの習得 フォーメーションの理論と実習 第9回 スパイクレシーブのフォーメーションの習得 フォーメーションの理解と実習 第10回 ブロックとレシーブフォーメーションの学習 第11回 ルールと審判法の学習 第12回 ゲームの実践と運営（個人技能の実践） 第13回 ゲームの実践と運営（チーム戦術の実践） 第14回 ソフトバレーボールの基本技術の理解と習得 第15回 ソフトバレーボールのリーグ戦（ゲームとまとめ） 実技テスト 						

テキスト：特に指定はしないが、適宜資料等を配布する。

参考書・参考資料等

日本バレーボール協会編 バレーボール指導教本 大修館書店

福原祐三 鈴木理 バレーボールの授業づくり 大修館書店

日本バレーボール協会編著 バレーボール6人制競技規則 日本バレーボール協会

学生に対する評価

授業中の意欲と態度および技能についての形成的評価（50%）、実技テスト（50%）

授業科目名： 体育方法学・実習（ソフトボール）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 黒田次郎、安部隆之 担当形態：複数・オムニバス			
科 目	①教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育） ②教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	①教科に関する専門的事項 ・体育実技 ②・体育					
授業のテーマ及び到達目標 <p>ソフトボールの基本的技術や戦術、練習方法を習得し、指導力を身につけること。 集団競技として積極的に他者との関わりを持てるようになるよう指導する力を身につけること。</p>						
授業の概要 <p>ソフトボールは投げる、打つ、走る、捕るなどの基本的運動が多く含まれるスポーツである。本授業では、ソフトボールの基本的な技術や戦術を説明し、その練習方法を紹介する。また、ゲームを通して、そのゲーム場面で起こる種々のプレイを実践展開する。これにより、ソフトボールを通じてスポーツに対する理解を深めるとともにスポーツに親しむ態度を育成していく力を身につけてもらう。</p>						
授業計画 <p>第1回：オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の方法）（担当：黒田）</p> <p>第2回：キャッチボールの基本 キャッチボールにおける体の使い方（担当：黒田、安部）</p> <p>第3回：個人の防御技術（スローイング） 正確にスローイングするには（担当：黒田）</p> <p>第4回：個人の防御技術（キャッチング） シングルハンドの必要性（担当：黒田、安部）</p> <p>第5回：個人の防御技術（野手の基本技術・飛球捕球） ゴロの捕球・スローイングやフライボールの捕球（担当：黒田、安部）</p> <p>第6回：個人の攻撃技術（バッティング） ボールを強く捉えるには（担当：黒田、安部）</p> <p>第7回：個人の攻撃技術（バッティング） ボールを遠くに飛ばすためには（担当：黒田、安部）</p> <p>第8回：集団の防御技術（連係プレー） 外野や内野の連携やダブルプレーなどの連係プレー (担当：黒田、安部)</p> <p>第9回：ルール・審判法・記録 ルールの把握と審判法（担当：黒田）</p> <p>第10回：ゲーム（ティーボール） チームごとに、ゲームの目標を掲げ、試合後振り返りをする (担当：黒田、安部)</p> <p>第11回：ゲーム（ソフトボール） チームごとに、ゲームの目標を掲げ、試合後振り返りをする (担当：黒田、安部)</p> <p>第12回：ゲーム（ソフトボール） チームごとに、ゲームの目標を掲げ、試合後振り返りをする (担当：黒田、安部)</p>						

第13回：ゲーム（ソフトボール） チームごとに、ゲームの目標を掲げ、試合後振り返りをする
(担当：黒田、安部)

第14回：ゲーム（ソフトボール） チームごとに、ゲームの目標を掲げ、試合後振り返りをする
(担当：黒田、安部)

第15回：確認課題（まとめ） (担当：黒田)

定期試験は行わない。

テキスト

必要な時に資料を配布します。

参考書・参考資料等

佐藤理恵監修「ソフトボール 基本と技術」(実業之日本社)

学生に対する評価

授業毎のミニレポート（50%）、取り組み姿勢・参加意欲（50%）

授業科目名： 体育方法学・実習（柔道）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 出口達也 担当形態：単独			
科 目	①教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育） ②教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	①教科に関する専門的事項 ・体育実技 ②・体育					
授業のテーマ及び到達目標 柔道における身体的、精神的、さらには教育的意義を理解し実習を行なう。						
授業の概要 受け身を中心に技術発展を考える。1礼法 2基本動作 3対人的動作 4自由練習						
授業計画 第1回：ガイダンス・柔道理論 第2回：受け身（後ろ受け身、横受け身、横転受け身、前回り受け身） 第3回：受け身の復習 第4回：投げ技（膝車） 膝車における受け身 第5回：投げ技（膝車、大腰） 大腰における受け身 第6回：投げ技（大腰、釣込腰、背負投） 釣込腰、背負投における受け身 第7回：掛かり練習 投げ技（大外刈） 大外刈における受け身 第8回：掛かり練習 投げ技（大内刈、小内刈） 小内刈における受け身 第9回：掛かり練習 投げ技（その他） 様々な技に対する受け身 第10回：固め技（袈裟固、上四方固、崩上四方固、横四方固） 第11回：固め技の復習 第12回：約束練習 第13回：約束練習、自由練習（乱取り） 第14回：自由練習（乱取り） 第15回：試験としてのまとめと振り返り						
テキスト 特になし						
参考書・参考資料等 隨 出口達也他 編著「武道をたずねて：武道教育の活用」（大学教育出版）						
学生に対する評価 課題、授業態度を総合的に評価する。						

授業科目名： 体育方法学・実習（ダンス）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 黒坂志穂 担当形態：単独			
科 目	①教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育） ②教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	①教科に関する専門的事項　・体育実技 ②・体育					
授業のテーマ及び到達目標 健康増進やからだづくりのためのダンスの方法を学び、ダンス及び基本的な身体技法を高め、指導力を身につける。						
授業の概要 身体の操作法を教示し、実践しながらダンスの技能も高めていく。 主に前半は、ダンスやステップの型を習得し、身体の能力を高める。 後半は、習得したステップを復習し、自己表現を加えられるよう技能を習熟させる。						
授業計画 第1回：オリエンテーション（ストレッチングの理論と実際の説明） 第2回：体ほぐし・体づくりの運動、リズムについての理解 第3回：体ほぐし・体づくりの運動、エアロビックダンス 第4回：体ほぐし・体づくりの運動、リズムダンス（ラテンダンス基礎）エアロビックダンス 第5回：体ほぐし・体づくりの運動、リズムダンス（ラテンダンス応用）エアロビックダンス 第6回：体ほぐし・体づくりの運動、リズムダンス（ヒップホップ）エアロビックダンス 第7回：リズムダンス（インストラクション）エアロビックダンス 第8回：リズムダンス（運動強度に応じた構成について） 第9回：リズムダンス（グループによる動きの構成）エアロビックダンス 第10回：創作ダンス（フォーメーション①） 第11回：創作ダンス（フォーメーション②） 第12回：創作ダンス（グループによる課題設定） 第13回：創作ダンス（グループによる作品づくり） 第14回：創作ダンス（発表） 第15回：発表会及びレポート提出						
テキスト 特になし						
参考書・参考資料等 『50歳からは筋トレはしてはいけない』（勇崎賀雄著、講談社+α新書）						

学生に対する評価

レポート内容（50%）、授業中の意欲と態度および技能についての形成的評価（50%）

授業科目名：体育方法学 ・実習（アダプティド・スポーツ）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1単位	担当教員名： 林俊雄、安部隆之			
			担当形態：複数・オムニバス			
科 目	①教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育） ②教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	①教科に関する専門的事項 ・体育実技 ②・体育					
授業のテーマ及び到達目標 <p>様々な立場の人が個々の違いを相互に理解しつつ共にスポーツのすばらしさを伝え・味わうことができるためアダプティド・スポーツの考え方と実践について、その指導の在り方まで含めて習得する。</p> <p>① アダプティド・スポーツという考え方（人をスポーツに合わせるのではなく、スポーツを人に合わせる）を理解し実践することができるようとする。</p> <p>② 障害者スポーツのルールや技術を習得し、ともに楽しむことができるようとする。</p>						
授業の概要 <p>スポーツを行う主体の条件に関わらず、だれもが人間として人間らしく生きるために権利としてスポーツはその文化的価値が認められている。本授業ではとりわけ、障害者がスポーツに参加するためのルールや道具など実践方法を工夫しながらスポーツ実践を行うことを中心的内容とする。</p>						
授業計画 <p>第1回：授業の進め方に関するオリエンテーション及びアダプティドの意味について（理論） （担当：林）</p> <p>第2回：肢体不自由児・者とアダプティド・スポーツについて（理論）（担当：林）</p> <p>第3回：シッティング・バレーボールの実践1（大まかなルールと技術）（実技）（担当：林、安部）</p> <p>第4回：シッティング・バレーボールの実践2（ルールの工夫と改変）（実技）（担当：林、安部）</p> <p>第5回：車椅子ソフトボールの実践1（大まかなルールと技術）（実技）（担当：林、安部）</p> <p>第6回：車椅子ソフトボールの実践2（ルールの工夫と改変）（実技）（担当：林、安部）</p> <p>第7回：視覚障害児・者とアダプティド・スポーツについて（理論）（担当：林）</p> <p>第8回：ゴールボールの実践1（大まかなルールと技術）（実技）（担当：林、安部）</p> <p>第9回：ゴールボールの実践2（ルールの工夫と改変）（実技）（担当：林、安部）</p> <p>第10回：障害の有無を乗り越えるアダプティド・スポーツについて（理論）（担当：林）</p> <p>第11回：ボッチャの実践1（大まかなルールと技術）（実技）（担当：林、安部）</p> <p>第12回：ボッチャの実践2（ルールの工夫と改変）（実技）（担当：林、安部）</p> <p>第13回：みんなで楽しめるアダプティド・スポーツのゲームづくり1（実技）（担当：林、安部）</p> <p>第14回：みんなで楽しめるアダプティド・スポーツのゲームづくり2（実技）（担当：林、安部）</p>						

第15回：まとめ：アダプテッド・スポーツの可能性（担当：林、安部）

単位修得試験：最終課題レポートを課す

テキスト：適宜プリントを配付する

参考書：「障害者スポーツの世界～アダプテッド・スポーツとは何か」藤田紀昭 角川学芸出版

学生に対する評価

最終レポート50%、毎時の講義の振り返りミニレポート50%

授業科目名：体育方法 学・実習（体つくり運動・集団行動）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：新本惣一朗 担当形態：単独			
科 目	①教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育） ②教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	①教科に関する専門的事項 ・体育実技 ②・体育					
授業のテーマ及び到達目標 体つくり運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動が苦手な学生も運動好きになることを目指す。運動を継続的に行うための資質・能力を育成する指導の在り方を学ぶ。						
授業の概要 体力を高める運動や体ほぐしの運動を体験する授業を通して、自己の心や体に気付き、学びを深め実生活に生かしていく態度を養う。体ほぐしを多く取り入れ、運動やスポーツが苦手と感じている学生も体を動かす楽しさや喜び、仲間との交流の楽しさを学んでいく。						
授業計画 <ul style="list-style-type: none"> 第1回：オリエンテーション 学習の見通し 体つくり運動・体ほぐし運動の意義 第2回：体ほぐしの運動 人との交流（アイスブレイク ジャンケンゲーム等） 第3回：集団での行動の仕方 （姿勢、番号のかけ方、列の増減、行進の仕方） 第4回：体ほぐしの運動 姿勢の転換運動 伸展運動と脱力運動 ペアで緊張をほぐす 第5回：体の柔らかさを高める運動 一人のストレッチング ・ペアができるストレッチング 第6回：体ほぐしの運動 昔遊び（ダルマさんが転んだ、ハンカチ落とし他） 第7回：巧みな動きを高める運動 ボールを使って フープを使って 第8回：体ほぐしの運動 鬼遊び（氷鬼、子とり鬼他） 第9回：巧みな動きを高める運動 リズムに乗って 第10回：力強い動きを高めるための運動（手押し車、片足ケンケン、腕立て伏せ移動他） 第11回：体ほぐしの運動 昔遊び（けん玉、コマ、お手玉） 第12回：力強い動きを高めるための運動（全身・腕・肩・脚・腹筋・背筋） 第13回：体ほぐしの運動（風船、バルーンを使って） 第14回：動きを持続する能力を高める運動 ペースランニング 繩を使った運動 第15回：まとめ 振り返りと今後の実践について 						
テキスト 特になし、授業で必要な場合適宜資料を配布						
参考書・参考資料等 文部科学省 高等学校学習指導要領、同 中学校学習指導要領、教師のための集団行動（学研）						
学生に対する評価 授業中の意欲と態度及び技能についての形成的評価（50%）、レポート内容（50%）						

授業科目名：スポーツ倫理・原理（含スポーツ法）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1単位	担当教員名：林俊雄 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）					
授業のテーマ及び到達目標 <p>スポーツ・体育の果たすべき社会的・教育的な役割について考察を深める。</p> <p>①スポーツ・体育に関する基本的な概念を理解できている。</p> <p>②スポーツ・体育が社会や教育との関係において果たすべき役割について、倫理学的に理解することができる。</p> <p>③スポーツ権保障を定めている法令について理解することができる。</p>						
授業の概要 <p>「スポーツ」「体育」とは何か、その基本的な概念や文化的な意義及び、スポーツや体育における倫理的な諸問題について考察していく。また、基本的人権の一つであるスポーツ権についてその法的根拠の理解を深める。</p>						
授業計画 <p>第1回：スポーツ倫理とは</p> <p>第2回：スポーツにおけるインテグリティー</p> <p>第3回：スポーツとフェアプレイの精神</p> <p>第4回：スポーツと勝敗～勝利至上主義の問題点～</p> <p>第5回：スポーツにおけるドーピングの実態と克服への手立て</p> <p>第6回：スポーツにおける差別とその克服（性差別、障害者差別、人種差別等）</p> <p>第7回：オリンピック・パラリンピックの展望（オリンピズムの理解を深めるために）</p> <p>第8回：スポーツ権を保障する法的根拠について</p>						
単位修得試験 ：実施する						
テキスト ：「よくわかるスポーツ倫理学」友添秀則編著 ミネルヴァ書房						
参考書 ：「スポーツ倫理」近藤良亭著 不昧堂出版						
学生に対する評価						
単位修得試験70%、毎時の講義の振り返りミニレポート30%						

授業科目名： スポーツ運動学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 井上恒志郎 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学(運動方法学を含む。)					
授業のテーマ及び到達目標：中学校、高等学校の保健体育教員として必要なヒトの運動学習に関わる諸概念や理論、用語を理解するとともに、運動が「できる」までの過程について理解を深めることで、運動学に基づいた指導上の注意点や「コツ」に気づく。						
授業の概要：前半は、機械や動物と比較しながらヒトの運動学習の特異性を概説するとともに、ヒトの運動学習が「できない」ところから「上手にできる」ところに至るまでにどのようなプロセスを経るのか解説する。後半は、運動指導を行う上で重要な運動学習の考え方や指導者の態度・能力を解説する。授業は講義形式で実施し、毎授業で終了時に振り返りのための小テストを行う。また授業の予習・復習にLMSを活用する。						
授業計画 第1回：運動学習とは？、ヒトと機械の運動学習の違い 第2回：ヒトの運動発達の特徴 第3回：ヒトでみられる新しい運動の習得法 第4回：運動指導における形成位相 第5回：運動ができるようになるまでの5つの位相 第6回：身体知、コツとカン 第7回：運動を学習することと指導すること 第8回：指導者に求められること						
定期試験						
テキスト 特になし（必要に応じて掲示、配布する）						
参考書・参考資料等 朝岡正雄『指導者のためのスポーツ運動学』大修館書店、2019 吉田茂、三木四郎『教師のための運動学—運動指導の実践理論』大修館書店、2005						
学生に対する評価 小テスト（30%，LMSで模範解答を掲示しフィードバックする），定期試験（70%）						

授業科目名： スポーツ心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 今井裕介 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学(運動方法学を含む。)					
授業のテーマ及び到達目標 <p>スポーツ心理学の基礎知識を理解する。スポーツ・体育場面での心理的課題やその介入方略を学び、スポーツにおける動機づけやコーチング、メンタルマネジメント（あがり、バーンアウト等への対処）の理論を習得する。スポーツ指導にそれらを適用し、実践現場における問題解決能力を身につけることを目標とする</p>						
授業の概要 <p>保健体育教諭、スポーツ指導者として求められるスポーツ心理学の基礎知識や実践的理論を学ぶ。スポーツ心理学における研究分野から運動学習の原理、動機づけ、スポーツ選手のメンタルヘルス上の課題等について学習を進める。</p>						
授業計画 第1回：スポーツ心理学の沿革 第2回：運動心理学① 運動学習の原理・効果的な運動指導 第3回：運動心理学② 動機づけ・パーソナリティ 第4回：競技スポーツの心理① スポーツ選手の心理的支援 第5回：競技スポーツの心理② スポーツメンタルトレーニングの基礎 第6回：健康スポーツ心理学① 健康行動としてのスポーツ 第7回：健康スポーツ心理学② スポーツ選手とバーンアウト 第8回：アダプテッドスポーツ心理学 アダプテッドスポーツの理解						
定期試験						
テキスト <p>「これから学ぶスポーツ心理学 改訂版」荒木雅信（編著） 大修館書店</p>						
参考書・参考資料等 適宜配布する。						
学生に対する評価 期末テスト60% 講義時における課題発表等40%						

授業科目名： スポーツ社会学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 森川貞夫 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学(運動方法学を含む。)					
授業のテーマ及び到達目標：基礎的なスポーツの歴史的・社会的理解と現代社会におけるスポーツの意義や重要性、さらに生涯にわたってスポーツの楽しさを享受できるための基本的知識・能力を身につけることを目指す。						
授業の概要：日本におけるスポーツの歴史的・社会的発展の基本を理解する。その上で現代社会におけるスポーツの文化的・社会的価値について学び、生涯スポーツのための基礎として地域スポーツについて総合型地域スポーツクラブなどの現状と問題点、スポーツマスコミの現状と今後の課題などを理解する。						
授業計画 第1回：オリエンテーション（現代社会とスポーツ） 第2回：スポーツと政治 第3回：スポーツとメディア 第4回：近代オリンピックの誕生とその歩み 第5回：日本のスポーツ組織の歴史的・社会的性格 第6回：スポーツとジェンダー 第7回：スポーツと地域社会 第8回：職業としてのスポーツ 定期試験（あるいはレポートによる評価）						
テキスト：井上俊・菊幸一編著『よくわかるスポーツ文化』ミネルヴァ書房						
参考書・参考資料等： 随時レジュメ・資料等を配布						
学生に対する評価： 毎回の出席カードによる授業への関心・態度を重視する（50%）。試験（あるいはレポート）結果（50%）による。						

授業科目名： スポーツ史	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 熊野晃三 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学(運動方法学を含む。)					
授業のテーマ及び到達目標：なぜ、スポーツの歴史を学ぶのか。隆盛を極めているかに見えるわが国のスポーツも、ある時代の現実とその時点における将来への展望、そしてそこに至る過去からの所産が積み重ねられて形成されてきたものなのである。ここに歴史を顧みる意義がある。ここでは、人類の歴史の中で体育・スポーツがどのように生まれ、変化してきたのかを同時代の社会との関わりの中で捉えていく。そして、今後様々な様相を呈するであろう体育・スポーツの動向を展望する上での、基礎的な理解を得ようとするものである。						
授業の概要：様々な時代や社会における体育・スポーツの状況、および歴史的変遷の過程、変化の理由などについての基本的な知識を習得していく。そして、その学習を通して、社会の変化とスポーツの変化とを相關的に見る視点を養うと同時に、現代の体育・スポーツに関わる諸問題について、歴史的な視点から考察することができるようにしていく。そのため未開時代から現代まで、時代を大きく捉えながらスポーツの通史を私たちに最も身近なわが国のスポーツ活動の変遷や展開を中心に、それぞれの時代の情勢および思想の傾向を背景に鳥瞰していく。						
授業計画 第1回：未開時代・古代のスポーツ 第2回：中世・近世のスポーツ 第3回：明治・大正期のスポーツ 第4回：昭和期のスポーツ（第2次世界大戦以前） 第5回：昭和期のスポーツ（第2次世界大戦以後） 第6回：古代ギリシャの祭典競技 第7回：近代オリンピックの再興と発展 第8回：スポーツの現状と課題 定期試験						
テキスト 特に指定しない。資料等を必要に応じて配布する。						

参考書・参考資料等

「図説スポーツ史」寒川恒夫編 朝倉書店

「スポーツ史講義」稻垣正浩・谷釜了正編著 大修館書店

「体育・スポーツの近現代史 一歴史からの問いかけー」阿部生雄監修 不昧堂出版

学生に対する評価

定期試験70%、課題提出物（20%）、授業への取組み姿勢（10%）を総合して評価する。

授業科目名： 運動生理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 井上恒志郎			
担当形態：単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 生理学(運動生理学を含む。)					
<p>授業のテーマ及び到達目標：運動生理学は、スポーツや運動を行うことで、身体の構造や機能がどのように変化または適応するかを学ぶ学問である。運動生理学では、中学校、高等学校の保健体育教員として必要な運動生理学の基本的知識を理解し、身につける。</p> <p>授業の概要：運動生理学では、スポーツや運動による身体の変化・適応を理解する上で重要な専門用語やメカニズム、現象について、生理学の知識を基盤として系統的（テーマ毎）に学習する。授業は講義形式で実施し、毎授業で終了時に振り返りのための小テストを行う。また授業の予習・復習にLMSを活用する。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：運動とエネルギー供給機構</p> <p>第2回：運動と骨格筋系①：筋線維の種類と特徴</p> <p>第3回：運動と神経系</p> <p>第4回：運動と骨格筋系②：筋の収縮様式と筋力</p> <p>第5回：運動と呼吸系</p> <p>第6回：運動と循環系</p> <p>第7回：運動と内分泌系</p> <p>第8回：運動と環境、体温調節</p> <p>定期試験</p>						
<p>テキスト</p> <p>『入門運動生理学 第4版』 勝田茂 杏林書院, 2017</p> <p>授業では、資料を別途掲示、配布する。</p>						
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『スポーツと運動の生理学 実践・指導の現場に役立つ知識と応用』 内山秀一、野坂俊弥、八田有洋 理工図書株式会社, 2022</p>						
<p>学生に対する評価</p> <p>運動生理学：小テスト（30%, LMSで模範解答を掲示しフィードバックする），定期試験（70%）</p>						

授業科目名： 公衆衛生学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 牧田 亨介			
担当形態：単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・衛生学・公衆衛生学					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種感染予防法を区別して具体的に述べられるようになる。標準予防策については確実に実践できるようになる。 ・主な感染症とその病原体について、病態の特徴や感染経路を理解し、それぞれの感染症の予防法を正しく挙げられる。 ・感染予防法としてのワクチン接種について、その意義や特徴について知識を得、適切な予防接種を促せるようになる。 ・生活習慣病について、疾患の種類ごとのリスク要因と予防法を知り、自己の生活の改善につなげられるようになる。 						
<p>授業の概要</p> <p>公衆衛生学の基礎として、予防医学についてその考え方と実践について学習する。業務の上でも日常生活でも重要となる感染症について、感染の基本的な機構を学び感染予防法について実践できるようとする。また、先進国で増加している生活習慣病について、それぞれの機序と生活に関連した予防法について理解する。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：予防医学概論：疾患の種類、疾患予防の分類とリハビリテーション</p> <p>第2回：感染症の予防（総論）：感染のメカニズム、医療従事者と感染予防</p> <p>第3回：感染症の予防（各論）：病原体/感染源 およびそれに関わる予防</p> <p>第4回：感染症の予防（各論）：感染経路とその分類 およびそれに関わる予防</p> <p>第5回：感染症の予防（各論）：感染経路に関わる予防—標準予防策、経路別感染予防策</p> <p>第6回：感染症の予防（各論）：宿主要因とヒトの免疫機構 およびそれに関わる予防—予防接種</p> <p>第7回：感染症の予防（具体論）：その他の感染症について・疾患の動態と予防策（1）</p> <p>第8回：感染症の予防（具体論）：その他の感染症について・疾患の動態と予防策（2）</p> <p>第9回：感染症の予防（具体論）：その他の感染症について・疾患の動態と予防策（3）</p> <p>第10回：生活習慣病の予防（総論）：慢性疾患の特徴、リスク要因と予防</p> <p>第11回：生活習慣病の予防（具体論）：がんの成り立ちとその予防</p> <p>第12回：生活習慣病の予防（具体論）：心疾患・脳血管疾患とその予防</p> <p>第13回：生活習慣病の予防（具体論）：糖尿病およびその他の代謝疾患とその予防</p>						

第14回：生活習慣病の予防（具体論）：メタボリックシンドロームと特定保健指導

第15回：生活習慣と健康増進：喫煙による身体への影響　まとめ：疾患の予防と健康増進

定期試験

テキスト

資料と指定教科書は用いない。主に、疾患に関する公的機関（厚生労働省、国立感染症研究所など）の公開情報を資料とする。授業の進行に合わせて外部の資料（元）を提示するので、必要な資料には各自でアクセスして参照すること。

参考書・参考資料等

国民衛生の動向 2022/2023 「厚生の指標」増刊 第69巻第9号 (厚生労働統計協会)

シンプル衛生公衆衛生学2023 小山洋（監修） 南江堂

学生に対する評価

定期試験 100%

授業科目名： 学校保健（小児保健 ・精神保健・救急処置 ）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 貞森節子、今井裕介			
			担当形態：オムニバス			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。 ）					
<p>授業のテーマ及び到達目標：学校保健（学校安全及び救急処置を含む）に関する知識を習得する。児童生徒の心と身体の発達の習得と児童生徒の心身の健康課題とその対応を理解し、教職員が果たす役割・機能を説明できる。学校保健（学校安全及び救急処置を含む）活動の実際を理解する。加えて、精神保健の基礎知識から児童生徒に見られる精神疾患や精神障害の理解、および精神保健の現状と課題について理解する。</p> <p>授業の概要：学校保健（学校安全及び救急処置を含む）の基礎的な知識を学ぶとともに、児童生徒の身体的・精神的・社会的側面の発達の特徴や健康課題とその対応や支援について理解する。実態に応じた学校保健活動が展開できるようになるための基礎力を身につける。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業のガイダンス。学校保健の歴史、意義・目的（担当：貞森節子）</p> <p>第2回：学校保健の領域、構造、関係法規（担当：貞森節子）</p> <p>第3回：児童生徒の身体的・精神的・社会的側面の発達の特徴（担当：貞森節子）</p> <p>第4回：現代における子どもの健康課題とその対策（担当：貞森節子）</p> <p>第5回：保健管理（健康相談、健康観察）（担当：貞森節子）</p> <p>第6回：保健管理（健康診断、疾病の予防と管理）（担当：貞森節子）</p> <p>第7回：保健管理（特別な配慮を要する児童生徒の保健管理、障害のある児童生徒への健康上の支援（担当：貞森節子）</p> <p>第8回：保健教育、環境衛生（担当：貞森節子）</p> <p>第9回：学校安全（安全管理、安全教育）（担当：貞森節子）</p> <p>第10回：学校安全（危機管理、救急処置）（担当：貞森節子）</p> <p>第11回：学校精神保健とは（担当：今井裕介）</p> <p>第12回：ストレスとこころの健康について（担当：今井裕介）</p> <p>第13回：発達障害について（担当：今井裕介）</p> <p>第14回：児童・思春期の精神保健の現状と課題について（担当：今井裕介）</p> <p>第15回：児童期・思春期に見られる精神疾患について（担当：今井裕介）</p> <p>定期試験</p>						

テキスト：新改訂版 学校保健実務必携（第5次改訂版）学校保健・安全実務研究会

参考書・参考資料等：学校保健ハンドブック第7次改訂/編集 教員養成系大学保健協議会

学生に対する評価：試験70%、課題レポート30%。

受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

授業科目名： 保健体育科教育論Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中 新治郎 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）					
授業のテーマ及び到達目標						
<p>【テーマ】保健体育を改めて問い合わせ直す</p> <p>【到達目標】学習指導要領の教科目標に示される「体育や保健の見方・考え方」を各々の運動領域について明確に指摘することができる。</p>						
授業の概要						
保健体育科が目指すべき教育目標を確認し、新たな保健体育の在り方と具体的に触れながら、自らの保健体育科の教育観を見つめ、再構成していく。						
授業計画						
第1回：オリエンテーション 学習指導要領における体育科の目標 運動領域を知る。						
第2回：子どものからだに関する諸問題はどこにあるのかを理解する。グループディスカッション						
第3回：体つくり運動（体ほぐしの運動） いろいろな体ほぐし運動 グループディスカッション						
第4回：体つくり運動（多様な動きをつくる運動 動きを高める運動） グループディスカッション						
第5回：陸上競技（投擲）教材の工夫・教具の工夫 いろいろなものを投げてみよう ICTの利活用						
第6回：陸上競技（跳躍）跳躍教材の実践史 フワッと浮遊してみよう ICTの利活用						
第7回：陸上競技（走）調査活動 リズムよく走ろう ICTの利活用						
第8回：球技 球技領域の3類型とそれぞれの特質						
第9回：球技 ゲーム様相の発展をさぐろう ICTの利活用						
第10回：球技 調査活動 ゲーム記録を利活用しよう グループディスカッション ICTの利活用						
第11回：器械運動 基礎感覚づくり						
第12回：器械運動 系統的指導 回転系、倒立系の技能習熟 ICTの利活用						
第13回：器械運動 コミュニケーション 作品づくり グループディスカッション ICTの利活用						
第14回：保健領域 健康の定義とは何か？対処療法にとどまらない保健認識						
第15回：保健領域 医学的知識と生活実践化（納得ある認識へ）						
テキスト：文部科学省『中学校学習指導要領解説（保健体育編）』『高等学校学習指導要領解説（保健体育編）』（東洋館出版）						
参考書・参考資料等						
講義資料として配布する。						
学生に対する評価						
平常点100点（内訳：授業への積極的参加度30% ミニ・レポート内容（7回）70%）						

授業科目名： 保健体育科教育論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中 新治郎 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）					
授業のテーマ及び到達目標						
【 テーマ 】 保健体育の教育学						
【 到達目標 】 指導のうえで必要となる教育学的用語を正しく理解し、それを用いて何のために 、何を、どのように指導・評価しようとするかを説明できる。						
授業の概要						
講義で取り上げられた保健体育の実践例をもとに、基礎理論を習得していく。						
授業計画						
第1回：学習指導要領と体育の課題						
第2回：教材と教科内容の定義						
第3回：運動技術指導における運動学的原則						
第4回：授業における発問指導 指導的評価活動						
第5回：教師の教材研究 教材解釈と教材開発						
第6回：技術指導の系統性						
第7回：学習集団の組織化						
第8回：運動の対象化（走運動の技術指導）						
第9回：ICTの利活用法						
第10回：競争の指導 競争における結果と経過の相補的関係						
第11回：球技におけるゲーム様相の発展 ボール操作能力とゲームの指導						
第12回：教育評価						
第13回：学習指導案						
第14回：教科外体育（体育的行事と運動部活動）の諸問題						
第15回：教科体育と教科外体育の連携						
テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領解説（保健体育編）』『高等学校学習指導要領解説（保健体育編）』（東洋館出版）						
参考書・参考資料等						
講義資料として配布する。						
学生に対する評価						
平常点評価100点（内訳：授業への積極的参加度15% 理解度テスト75% レポート10%）						

授業科目名： 保健体育科指導法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中 新治郎 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）					
<p>【授業のテーマ】保健体育の領域の構成・内容と指導法の基礎的知識と実践力を身につける。</p> <p>【到達目標】①目指すべき保健体育科の目標・内容・方法を説明できる。</p> <p>②ICTを利活用し運動技能の指導の原則にもとづいて指導できる。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>指導法に関する基礎的な知識・概念を学び、模擬授業を作り、実践して、そこに学ぶ。さらに情報機器およびICTの利活用法も学んでいく</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業構成の方法・手順を知る 学習指導案を書く 単元目標・単元構成</p> <p>第2回：学習活動の提示場面、問題解決場面、教育評価場面にICTを利活用する</p> <p>第3回：文部科学省：各教科の指導におけるICTの効果的な活用に関する参考資料について議論する</p> <p>第4回：体づくり運動の実践例に学ぶ（知識・技能の指導）</p> <p>第5回：ICTを利活用した体づくり運動の授業構成（思考・判断・表現の指導）</p> <p>第6回：体づくり運動の模擬授業と授業後検討会</p> <p>第7回：体づくり運動の模擬授業実践の総括とディスカッション</p> <p>第8回：陸上競技の実践例に学ぶ（知識・技能の指導 運動学習の対象化 共通の教育内容）</p> <p>第9回：ICTを利活用した陸上競技の授業構成（思考・判断・表現の指導）</p> <p>第10回：陸上競技の模擬授業と授業後検討会</p> <p>第11回：陸上競技の模擬授業実践の総括とディスカッション</p> <p>第12回：水泳の実践例に学ぶ（知識・技能の指導）</p> <p>第13回：ICTを利活用した水泳の授業構成（思考・判断・表現の指導）</p> <p>第14回：水泳の模擬授業と授業後検討会</p> <p>第15回：水泳の模擬授業実践の総括とディスカッション</p>						
<p>テキスト：『スポーツの主人公を育てる体育・保健の授業づくり－指導案の基本とプラン集－』（創文企画）</p> <p>参考書・参考資料等：文部科学省『中学校学習指導要領解説（保健体育編）』『高等学校学習指導要領解説（保健体育編）』（東洋館出版）</p>						
<p>学生に対する評価</p> <p>平常点評価100点（内訳：授業への積極的参加度15% 指導案（3回）45% レポート40%）</p>						

授業科目名： 保健体育科指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中 新治郎 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）					
授業のテーマ：教職実践力を構成する授業力および指導力を高める。						
到達目標：①授業場面を想定して、ねらいや対象に応じた教材づくりができる。 ②授業を想定してICTを利活用して指導できる。						
授業の概要						
第1回：器械運動の実践例とICTを利活用した授業構成						
第2回：器械運動の模擬授業と授業後検討会						
第3回：器械運動の模擬授業実践の総括とディスカッション						
第4回：ダンスの実践例とICTを利活用した授業構成						
第5回：ダンスの模擬授業と授業後検討会						
第6回：ダンスの模擬授業実践の総括とディスカッション						
第7回：武道の実践例とICTを利活用した授業構成						
第8回：武道の模擬授業と授業後検討会						
第9回：武道の模擬授業実践の総括とディスカッション						
第10回：保健の実践例とICTを利活用した授業構成						
第11回：保健の模擬授業と授業後検討会						
第12回：保健の模擬授業実践の総括とディスカッション						
第13回：体育理論の実践例とICTを利活用した授業構成						
第14回：体育理論の模擬授業と授業後検討会						
第15回：体育理論の模擬授業実践の総括とディスカッション						
テキスト：『スポーツの主人公を育てる体育・保健の授業づくり－指導案の基本とプラン集－』（創文企画）						
参考書・参考資料等：文部科学省『中学校学習指導要領解説（保健体育編）』『高等学校学習指導要領解説（保健体育編）』（東洋館出版）						
学生に対する評価						
平常点評価100点（内訳：授業への積極的参加度25% 指導案（5回）75%）						

授業科目名：法と人権 (憲法を含む)	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大田 晋			
担当形態：単独						
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法					
授業のテーマ及び到達目標						
<p>子どもの保育や教育にたずさわる者は、人としての優しさはもちろんのこと、良き国民としての「教養」を持つことが求められる。「教養」の一つとして社会のルールである憲法をはじめとするわが国の法全体の理解と知識を修得し、子どもの成育に貢献できる専門職に近づくことを目指す。</p>						
授業の概要						
<p>我われは、社会に生きている限り何らかのルールの中で生きている。そのルールこそが「法」であり、共通の約束事である。</p> <p>「人権」という「人としての権利、個人としての権利」を保障するための基本となる法は「憲法」である。講義では、はじめに法全般におけるものの考え方、体系、法および法律の基礎知識を学び、次にそれらの理解と知識のもとに、法体系の最高位にあって「人権＝基本的人権」を規定している「憲法」を詳しく学ぶ。</p>						
授業計画						
第1回：講義のイントロ（講義の概要、講義の狙いと目標、講義の進め方、ノートの作り方など）						
第2回：「法」とはなにか～法の意味・役割、法と社会・国家、法と人権						
第3回：法の分類と体系						
第4回：法と社会（国民生活）						
第5回：刑法						
第6回：民法						
第7回：憲法～概要、意味						
第8回：憲法～制定の歴史						
第9回：憲法～国民主権						
第10回：憲法～基本的人権（その1）自由権						
第11回：憲法～基本的人権（その2）参政権						
第12回：憲法～基本的人権（その3）社会権						
第13回：憲法～平和主義（戦争放棄）						
第14回：憲法～国家統治機構（その1）日本の議会制度						
第15回：憲法～国家統治機構（その2）三権分立の基本的な構造						
定期試験						

テキスト

『日本国憲法』条文集（童話屋）

参考書・参考資料等

『医療・福祉を学ぶ人のための方学入門』（久塚純一ほか、法律文化社）

学生に対する評価

期末試験90%、授業への取組み姿勢10%

授業科目名：英語IA（ 読み解中心）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：西本 純子
担当形態：単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標	正確に情報を読み取り、まずはその内容を英語で要約することです。		
授業の概要	<p>技能（読み、書く、聞く、話す）を改めて基本から復習して、吸収した知識と情報を基にして自己の考えを発信できるように学習します。言い古されていることですが、獲得した情報を吟味し自分の意見にまとめて、他者に伝えることができるようになるには、かなりの練習が必要です。インプットにとどまらず、アウトプットできるようになる過程に重点を置いて授業を進めています。</p>		
授業計画	<p>第1回：Unit 1 Welcome to the “Big Apple” 現在形</p> <p>第2回：Unit 1 Reading and Writing Exercises</p> <p>第3回：Unit 2 What’s the Boss Like? 代名詞</p> <p>第4回：Unit 2 Reading and Writing Exercises</p> <p>第5回：Unit 3 Masa’s First Day on the job 前置詞</p> <p>第6回：Unit 3 Reading and Writing Exercises</p> <p>第7回：Unit 4 Summer Fun 過去形</p> <p>第8回：Unit 4 Reading and Writing Exercises</p> <p>第9回：Unit 5 Hotel Guest Satisfaction 可算・不可算名詞</p> <p>第10回：Unit 5 Reading and Writing Exercises</p> <p>第11回：Unit 6 Brainstorming 進行形</p> <p>第12回：Unit 6 Reading and Writing Exercises</p> <p>第13回：Unit 7 Glad to Be of Service WH疑問形</p> <p>第14回：Unit 7 Reading and Writing Exercises</p> <p>第15回：前期復習</p>		
定期試験			
テキスト	「English Missions! Basic」（Robert Hickling、金星堂）		
参考書・参考資料等	「総合英語Forest」（石黒昭博、桐原書店）		

学生に対する評価

授業中の積極的参加状況10%、小テスト20%、学期末試験70%で総合的に評価します。

授業科目名：英語IB（ 読み解中心）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：西本 純子			
担当形態：単独						
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション					
授業のテーマ及び到達目標						
一つのトピックについて、単文を組み合わせて、英語で説明できるようにしましょう。						
授業の概要						
前期に続き、技能の向上に努めますが、短文の英文作成の練習から、接続詞を使って、詳しく自分の意見を述べられるように練習をしていきます。						
授業計画						
第1回：Unit 8 Socializing with Co-Workers 動名詞・不定詞						
第2回：Unit 8 Reading and Writing Exercises						
第3回：Unit 9 Vacation Sports 未来形						
第4回：Unit Reading and Writing Exercises						
第5回：Unit 10 Sports Talk 比較級・最上級						
第6回：Unit 10 Reading and Writing Exercises						
第7回：Unit 11 Tour Day 助動詞						
第8回：Unit 11 Reading and Writing Exercises						
第9回：Unit 12 Party Time! 現在完了形						
第10回：Unit 12 Reading and Writing Exercises						
第11回：Unit 13 Office Meeting 関係詞						
第12回：Unit 13 Reading and Writing Exercises						
第13回：Unit 14 A Bit of History 受動態						
第14回：Unit 14 Reading and Writing Exercises						
第15回：後期復習						
定期試験						
テキスト						
「English Missions! Basic」 (Robert Hickling、金星堂)						
参考書・参考資料等						
「総合英語Forest」 (石黒昭博、桐原書店)						
学生に対する評価						
授業中の積極的参加状況10%、小テスト20%、学期末試験70%で総合的に評価します。						

授業科目名：英語IIA（ 読み解中心）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：西本 純子			
担当形態：単独						
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション					
授業のテーマ及び到達目標						
各ユニットのダイアローグを理解し、それを参考にして、与えられたテーマでスクリプトを作成します。会話練習をした上で、グループ毎に発表してもらいます。また、異文化の短い説明文の読み解きに慣れましょう。						
授業の概要						
トピック別に必要な語彙を習得し、英語のコミュニケーション力の基礎を固めながら、言語が交わされる異文化の理解を深めていきます。日本人とは違う発想を理解し、違和感を持つのではなく多様な価値観が存在することを念頭に置いて、聞き手を説得できるように自己の考えを述べる練習をします。						
授業計画						
第1回：Unit 1 May I help you? 困った人に話しかける						
第2回：Unit 1 Getting around in a foreign country 外国で歩きまわる						
第3回：Unit 2 What do you do on the weekend? 初対面の人と会話を続ける						
第4回：Unit 2 Tips for Keeping a Conversation Going 会話を続けるためのヒント						
第5回：Unit 3 That sounds interesting! ポジティブ／ネガティブな意見を述べる						
第6回：Unit 3 Juggling Preferences in a Group グループ内の好みを調整する						
第7回：Unit 4 I'm not feeling well. 体調を伝える						
第8回：Unit 4 I Do Not Feel Well: What Do I Do? 体調がよくない：さあどうする？						
第9回：Unit 5 You shouldn't step there! 注意する						
第10回：Unit 5 Local Etiquette: Know Before You Go 現地のエチケット：行く前に知っておこう						
第11回：Unit 6 Why don't we buy potatoes, too? 提案する						
第12回：Unit 6 To Speak Up or to Hold Back? はつきり言うか、言うのを控えるか						
第13回：Unit 7 Would 5pm be convenient for you? スケジュールを調整する						
第14回：Unit 7 What Time Should I Be There? 何時に到着すればよいのか？						
第15回：前期復習 要点チェック						
定期試験						
テキスト						
「グローバル人材をめざす大学生の英語スキル&コミュニケーション」（柴田真一・神藤理恵、金星堂）						

参考書・参考資料等

「総合英語Forest」（石黒昭博、桐原書店）

学生に対する評価

授業中の積極的参加状況10%、小テスト20%、学期末試験70%で総合的に評価します。

授業科目名：英語IIB（ 読み解き中心）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：西本 純子 担当形態：単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション					
授業のテーマ及び到達目標						
ネイティブの自然な発音、イントネーションをお手本にしながら、発話の練習をしましょう。自己流の発音、イントネーションでは、リスニング力を伸ばす大きな妨げになりますので、恥ずかしがらずにまねて練習しましょう。また、読み解きの速読に挑戦しましょう。						
授業の概要						
前期に引き続き、トピック別に、コミュニケーション力を高める練習をします。さらに、スキットを作成する際、各話し手の隠れたニュアンスを意識しながら会話文を完成させましょう。場合によっては、文法的には100%正しくても、真意が伝わらない、あるいは、誤解されてしまうこともあり得ることを学習しましょう。						
授業計画						
第1回：Unit 8 I'll have to pass. 依頼を断る						
第2回：Unit 8 Dealing with Diet Restrictions 食事制限に対処する						
第3回：Unit 9 I have an idea. 解決策を提案する／協働作業する						
第4回：Unit 9 The Importance of Being Proactive 積極的であることの大切さ						
第5回：Unit 10 Could you do me a favor? お願いする						
第6回：Unit 10 Two ways to ask: Directly vs. Indirectly 2通りの頼み方: 直的的か、間接的か						
第7回：Unit 11 I think you could explain this more. アドバイスをする						
第8回：Unit 11 Giving and Accepting Criticism in an effective way 批判を効果的に与える／受け入れる						
第9回：Unit 12 I don't get what you mean. 発言を聞き返す						
第10回：Unit 12 But I still do not understand! それでもわからない！						
第11回：Unit 13 I'm so sorry to hear that. 相手を励ます						
第12回：Unit 13 Being a good winner … or loser よき勝者、または敗者であること						
第13回：Unit 14 That's not what I meant. 誤解を解く／真意を伝える						
第14回：Unit 14 What should I get them? 何をあげたらよいのか？						
第15回：後期復習 要点チェック						
定期試験						
テキスト						
「グローバル人材をめざす大学生の英語スキル&コミュニケーション」（柴田真一・神藤理恵、金星堂）						

参考書・参考資料等

「総合英語Forest」（石黒昭博、桐原書店）

学生に対する評価

授業中の積極的な参加状況10%、スキットの発表20%、期末試験70%で総合的に判断します。

授業科目名：情報活用 演習 I	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：梶岡 寿満子 担当形態：単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・情報機器の操作					
授業のテーマ及び到達目標						
Windowsの基本操作ができる。Word・PowerPointの基本機能を使って、効率よくレポート作成や資料作成ができる。説明書を読んで基本操作ができる。ブラインドタッチがある程度できるようとする。						
授業の概要						
学生生活においてレポート作成・資料作成で必要とされる、基礎レベルの情報リテラシーを身につける。資料作成の基礎である、ワープロ・プレゼンテーションの基本技能を習得する。						
授業計画						
第1回：ガイダンス、Windowsの基本						
第2回：タイピング、クラウドについて						
第3回：文書の入力と保存						
第4回：Wordによる基本的な文書の作成						
第5回：Wordによる図の挿入						
第6回：Wordによる表の挿入						
第7回：Wordによる表現力をアップする機能						
第8回：第1回総合課題とまとめ						
第9回：Wordによる長文のレポートの編集						
第10回：PowerPointによる簡単なプレゼンテーションの作成						
第11回：PowerPointによるオブジェクトの作成						
第12回：PowerPointによる画面切り替え・アニメーション・印刷設定						
第13回：PowerPointの演習						
第14回：Wordの総合演習						
第15回：第2回総合課題とまとめ						
定期試験						
テキスト						
情報リテラシーアプリ編<改訂版>Windows 10・Office 2016対応（富士通エフ・オー・エム株式会社、FOM出版）						
参考書・参考資料等						
なし						

学生に対する評価

タイピング10%、授業内課題・総合課題合わせて60%、期末試験30%とする。

授業科目名：情報活用 演習II	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：梶岡 寿満子 担当形態：単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・情報機器の操作					
授業のテーマ及び到達目標						
Excelの基本機能を使って、手際よく表作成ができる。説明書を読んで基本操作ができる。						
授業の概要						
学生生活において、資料作成・データ分析で必要とされる、表計算の基本技能を習得する。授業を通して、教員の仕事を支援する道具としての、パソコンを使いこなす能力を身につける。						
授業計画						
第1回：ガイダンス、表計算ソフトとは						
第2回：Excelの基礎						
第3回：Excelの計算式（四則演算、基本の関数）						
第4回：Excelの書式設定						
第5回：Excelの表の編集、複数シートの操作						
第6回：Excelの印刷設定、グラフ作成その1（棒・折れ線・円グラフ）						
第7回：Excelの基本、グラフ作成その2（複合グラフ）						
第8回：Excelのデータベース機能						
第9回：Excelのテーブルの利用						
第10回：Excelの応用関数1（数学／三角関数）						
第11回：Excelの応用関数2（論理関数）						
第12回：Excelの応用関数3（統計関数）						
第13回：Excelの条件付き書式						
第14回：Excelの演習						
第15回：Excelの総合まとめ						
定期試験						
テキスト						
情報リテラシーアプリ編<改訂版>Windows 10・Office 2016対応（富士通エフ・オー・エム株式会社、FOM出版）						
参考書・参考資料等						
なし						
学生に対する評価						
タイピング10%、授業内課題・総合課題合わせて60%、期末試験30%とする。						

授業科目名： 教育の原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 深澤 悅子			
担当形態：単独						
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想					
授業のテーマ及び到達目標						
<p>1. 教育学の基本概念、教育の本質および目標を理解している。</p> <p>2. 児童・生徒と教師、家庭と学校など、教育を成り立たせる要素とそれらの相互作用を理解している。</p> <p>3. 家族と社会における教育の歴史を理解している。</p> <p>4. 近代教育制度の成立と展開について理解している。</p> <p>5. 現代における教育課題を歴史的な視点について理解している。</p> <p>6. 家庭や子どもに関わる教育の歴史について理解している。</p> <p>7. 学校や学習に関わる教育の思想を理解している。</p> <p>8. 代表的な教育家の思想を理解している。</p>						
授業の概要						
教育に関する基本概念や教育の理念について、教育の思想や歴史において、どのように思索し、営まれてきたのかについて学ぶことで、これまでの教育や学校のあり方がどのように捉えられ、変遷してきたのかについて理解する。						
授業計画						
第1回：教育とは何か・教育の必要性 —「教えること」と「学ぶこと」						
第2回：家庭と学校 — 「居間の教育学」						
第3回：子どもの発達と教育 —近代思想における「自然」と「人為」						
第4回：西洋教育思想 (1) ソクラテス、コメニウス、ルソー						
第5回：西洋教育思想 (2) ペスタロッチ、フレーベル、デューイ						
第6回：学校と社会						
第7回：近代教育制度と学校教授						
第8回：学習指導要領の変遷						
第9回：学力形成と人格形成 —陶冶と訓育の統一						
第10回：教育における指導 —教育的タクト						
第11回：教育における権利と義務						
第12回：特別支援教育の動向 — 多様性とケア						
第13回：教育における測定と評価						
第14回：生涯学習と社会教育の歴史						

第15回：教育の可能性と課題

定期試験

テキスト

- ・毎回、適宜資料を配布する。（その資料をファイリングして一冊の教育原理の教科書を作成する。）

参考書・参考資料等

文部科学省『小学校 学習指導要領』

文部科学省『中学校 学習指導要領』

文部科学省『高等学校 学習指導要領』

『教育とは何か』 大田堯 岩波新書

学生に対する評価

レポート及び提出物 40% 試験 60%

授業科目名： 教職入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森下（村上）真実 担当形態：単独			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応 を含む。）					
授業のテーマ及び到達目標						
(1) 教職の社会的意義、(2) 今日の教員に求められる役割や資質能力、(3) 教諭の職務内 容や研修、服務上・身分上の義務や身分保障、(4) 学校内外の連携の考え方について理解す る。						
授業の概要						
教職の意義や役割、資質能力、職務内容等についての理解を深めていく中で学生自身が自分の 適性を判断し、現代社会の学校教育をめぐる諸課題をふまえながら教師として何を大切にして どのように成長していくかを考えていく。						
授業計画						
第1回：教職の意義～公教育の目的～						
第2回：教師を養成するシステム～教職の特徴～						
第3回：教師に求められる資質・能力						
第4回：教員の職務内容①～教えるということ～						
第5回：教員の職務内容②～授業をつくる～						
第6回：教員の職務内容③～生徒指導～						
第7回：教員の職務内容④～学級経営～						
中間確認試験実施						
第8回：専門職としての教師						
第9回：学校とは何か						
第10回：組織人としての教師～校内における連携～						
第11回：教育公務員としての教師①～服務上・身分上の義務および身分保障～						
第12回：教育公務員としての教師②～処分と教員評価～						
第13回：教師の勤務						
第14回：学校・家庭・地域の連携と教師						
第15回：学び続ける教師～教員研修および教師としてのキャリア～						
単位修得試験実施						
テキスト						
教師教育講座 第1巻 教職概論（曾余田 浩史 編著、協同出版）						

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

中間試験50%、単位修得試験50%

授業科目名： 教育行政学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉田 香奈 担当形態：単独			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）					
授業の到達目標及びテーマ						
<p>(1) 社会の状況とその変化が学校教育にどのような影響を与えていているかを理解する。</p> <p>(2) わが国の学校制度や教育行政制度の仕組みやその特徴を、教育法規に照らして理解する。</p> <p>(3) 現代教育における学校、家庭、地域社会の連携協力の重要性と、学校安全・危機管理の意義と対応方法について理解する。</p>						
授業の概要						
<p>わが国の教育が、どのような社会的、制度的枠組みの中で運用されているか、その制度的実態と課題について理解する。まず、公教育の概念や教育基本法に触れながら、現代の学校教育がどのような考え方(理念)に基づいて行われているかを検討する。さらに、わが国の教育がどのような社会的、制度的枠組みの中で実施されているか、その制度的実態を国や地方や学校に焦点を当てて考察する。以上から、現代教育の制度的特徴と課題および今後の展望について考える。</p>						
授業計画						
<p>第1回：公教育の理念と原理</p> <p>第2回：教育法制の現状と課題</p> <p>第3回：学校安全・危機管理の現状と課題</p> <p>第4回：教育行政の現状と課題－文部科学省－</p> <p>第5回：教育行政の現状と課題－教育委員会－</p> <p>第6回：学校経営の現状と課題</p> <p>第7回：学校評価の現状と課題</p> <p>第8回：学校と地域の連携の現状と課題</p> <p>第9回：社会教育行政の現状と課題</p> <p>第10回：教育課程行政の現状と課題</p> <p>第11回：特別支援教育行政の現状と課題</p> <p>第12回：児童・生徒管理の現状と課題－在学管理－</p> <p>第13回：児童・生徒管理の現状と課題－懲戒と体罰問題－</p> <p>第14回：教職員管理の現状と課題－身分と義務－</p> <p>第15回：教職員管理の現状と課題－分限と懲戒－</p>						
単位修得試験実施						
テキスト						
「教育行財政・学校経営（改訂版）」（古賀一博編著、協同出版）						
参考書・参考資料等						
「必携教職六法」（高見茂監修、協同出版）						
学生に対する評価						
小レポート50%、単位修得試験50%						

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中條和光			
担当形態：単独						
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程					
授業のテーマ及び到達目標						
この講義では、教師の専門性を支える基盤として、以下の項目を到達目標とする。						
<p>(1) 学習に関する基礎的知識を身につける。</p> <p>(2) 幼児期から青年期にかけての心身の発達の過程と特徴を理解する。</p> <p>(3) 幼児期から青年期の発達を踏まえた学習指導の基礎的考え方を理解する。</p>						
授業の概要						
はじめに、教育を取り巻く最近の諸事情や学習者の心身の発達や学習のしくみを知ることが教師や保育士を目指す皆さんにとってどのような意義を持つのかについて説明する。講義前半では、学習心理学に基づいて、学びの基礎的なしくみや学習意欲について講義する。後半では、乳幼児期から青年期までの心身の発達について講義する。最後に、心身の発達や学習機能の個人差に応じた配慮について教育のバリアフリーの観点から講義する。						
授業計画						
第1回：教育心理学について学ぶ意義（教科書第0章）						
第2回：学習のメカニズム 条件づけとその応用1：古典的条件づけ（教科書第1章）						
第3回：学習のメカニズム 条件づけとその応用2：道具的条件づけ、観察学習（教科書第1章）						
第4回：動機づけの基礎：学習意欲の成り立ち（教科書第2章）						
第5回：動機づけの応用：学習意欲を引き出し、持続させる指導（教科書第3章）						
第6回：知識獲得としての学習：記憶の分類、ワーキングメモリ（教科書第4章）						
第7回：主体的・対話的で深い学びを促す指導1 対話的で深い学び：記憶の理論を活かす（教科書第5、12章）						
第8回：主体的・対話的で深い学びを促す指導2 主体的な学び：メタ認知と学習方略（教科書第6、7章）						
第9回：指導と評価の一体化：学習評価を指導に活かす（教科書第15章）						
第10回：心身の発達の理論（教科書第8章）						
第11回：乳・幼児期の発達（教科書第9章）						
第12回：社会性・道徳性の発達（教科書第10章）						
第13回：学級集団づくり、協同学習（教科書第11章）						
第14回：青年期の発達：自己の形成（教科書第13章）						
第15回：「障がい」の理解（教科書第14章）						

定期試験
テキスト
絶対役立つ教育心理学 [第2版] (藤田哲也 (編著)、ミネルヴァ書房)
参考書・参考資料等
小学校、中学校学習指導要領 (平成29年告示) 文部科学省
高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 文部科学省
学習心理学 (中條和光 (編著)、北大路書房)
学生に対する評価
期末試験と講義中に課す課題レポートを総合して評価する。期末試験は、期末レポートで代替する場合がある。

授業科目名：特別支援教育	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：湯浅恭正			
			担当形態：単独			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①特別支援教育の理念と制度を理解する。</p> <p>②特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の発達特性の理解と支援方法について理解する。</p> <p>③共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築における特別支援教育のすすめ方についての基礎を学び理解する。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>教員免許状取得必修科目であり、特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の教育を支える制度や教育上の仕組み、教育内容、障害特性の理解と支援のあり方についての基礎的な知識を学ぶ。また、障害のある者とない者が共に生きる社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築の現状と課題について学び、考えることができるようとする。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：特別支援教育の対象</p> <p>第2回：インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の理念と制度</p> <p>第3回：特別支援教育のこれまでとこれから①（障害児教育の歴史と特別支援教育）</p> <p>第4回：特別支援教育のこれまでとこれから②特別支援教育の各形態（特別支援学校・特別支援学級・通級による指導）とインクルーシブ教育システム</p> <p>第5回：特別支援教育のこれまでとこれから③特別支援教育コーディネーターの役割、関係機関との連携</p> <p>第6回：特別支援学校・特別支援学級に在籍する児童・生徒（視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱）の学習・発達における困難さとニーズの理解</p> <p>第7回：自閉症スペクトラム障害・学習障害・注意欠如/多動性障害等の子どもに対する通常学級での支援の在り方と学級経営（特別支援教育支援員の活用）</p> <p>第8回：自閉症スペクトラム障害・学習障害・注意欠如/多動性障害等の子どもに対する通常学級での支援の在り方と学校経営（校内委員会の役割と機能）</p> <p>第9回：自立活動の意味と個別の指導計画の作成</p> <p>第10回：個別の教育支援計画の作成と生涯学習の在り方</p> <p>第11回：就学にかかる相談と幼児期における支援の在り方（家庭との連携を含む）</p> <p>第12回：虐待・不登校問題と特別支援教育の課題</p>						

第13回：外国につながりのある子どもの支援と組織的対応

第14回：多様な性を生きる子どもの理解と対応の在り方

第15回：インクルーシブ教育時代の特別支援教育の方向と課題

単位修得試験

テキスト:よくわかる特別支援教育 第2版(湯浅恭正編、ミネルヴァ書房、2018年)

参考書・参考資料等:よくわかるイクルーシブ教育(湯浅恭正、新井英靖、吉田茂孝編、ミネルヴァ書房、2019年) 特別支援学校学習指導要領(平成29年公示、文部科学省)

学生に対する評価

単位修得試験80%、中間における講義の振り返りの報告20%

授業科目名： 教育課程論（小・中・高）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉田成章 担当形態：単独			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）					
授業のテーマ及び到達目標						
教育課程の意義および編成原理に関する理解を深め、学校における教育課程の実践的展開について具体例に即して学習することで、教師の専門職としての基礎・基本を習得する。						
授業の概要						
「教育課程」と「カリキュラム」という用語の定義やその歴史的展開の理解を踏まえ、国際・国内学力調査の結果への対応も含めた国際的なカリキュラム改革の動向の中にわが国の学習指導要領の改訂の特質を位置づけるとともに、中学校・高等学校におけるカリキュラム・マネジメントの具体的な実践の検討を通して教育課程編成に関わる内的要因と外的要素の関係を捉えるとともに、カリキュラムを評価するということの意義と課題について理解を深める。						
授業計画						
第1回：教育課程論の対象と範囲						
第2回：教育課程とカリキュラムおよび教育課程の編成原理						
第3回：学習指導要領の変遷と教育課程編成の意義						
第4回：教育課程行政と今時学習指導要領改訂の特質						
第5回：国際学力調査と諸外国のカリキュラム改革						
第6回：学力論変遷と学力形成の課題						
第7回：国内学力調査の動向と教育課程編成の課題						
第8回：教育課程経営とカリキュラム・マネジメント						
第9回：教材開発を視点とした教育課程編成						
第10回：単元開発による教科固有性と教科横断性						
第11回：子どもの多様性からみた教育課程編成の意義と課題						
第12回：地域実態を踏まえた教育課程編成の具体的展開						
第13回：学校の特色を活かした教育課程編成のあり方						
第14回：授業研究を軸とした教育課程の評価と改善						
第15回：教育課程の評価とカリキュラム評価						
定期試験						
テキスト						
テキスト指定は行わず、資料・プリントを配布する						

参考書・参考資料等

『小学校学習指導要領』（平成29年告示 文部科学省）

『中学校学習指導要領』（平成29年告示 文部科学省）

『高等学校学習指導要領』（平成30年告示 文部科学省）

学生に対する評価

授業への参加10%、中間課題20%、最終試験70%で評価する。

授業科目名： 道徳教育指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡村 美由規、山内 規嗣			
担当形態：オムニバス						
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法					
授業のテーマ及び到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校における道徳教育の目的と内容・方法について理解を深める。 ・ 道徳科において、発達段階に応じた道徳教育のあり方や道徳科授業づくりについての理解を深める。 ・ 道徳科学習指導案作成及び具体的な授業展開の技能を身に付ける。 						
授業の概要						
<p>青少年期の道徳性の発達過程を概観するとともに、道徳に関する国内外の主要な理論を紹介し、道徳性についての基本的な理解を図る。この理解に基づいて、小学校および中学校における道徳教育の意義やねらい、内容、指導方法について、具体的な実践事例を活用しながら、グループディスカッション及び模擬授業を行い、道徳の授業に必要となる基礎的知識及び実践的な指導力の習得を図ることを目的とする。</p>						
授業計画						
第1回 オリエンテーション、特別の教科道徳の考え方（担当：山内） 第2回 道徳教育の原理と基本概念（担当：山内） 第3回 道徳を教育することを考える（担当：山内） 第4回 日本の道徳教育の歴史（担当：山内） 第5回 道徳性の発達理論（担当：山内） 第6回 道徳科の目標および内容（担当：山内） 第7回 自我関与を中心とした道徳授業（担当：山内） 第8回 道徳的葛藤を用いた話し合い授業の原理（担当：岡村） 第9回 心情的葛藤を用いた話し合い授業の原理（担当：岡村） 第10回 道徳科の特性を踏まえた学習評価（担当：岡村） 第11回 学習指導案づくり（担当：岡村） 第12回 模擬授業Ⅰ（5人ずつ班をつくり、15分ずつ模擬授業をします）（担当：岡村） 第13回 模擬授業Ⅱ（同上）（担当：岡村） 第14回 模擬授業Ⅲ（同上、講評）（担当：岡村） 第15回 教材研究を深める～多面的・多角的な価値内容分析に基づく授業構想～（担当：岡村）						
定期試験：最終レポート（詳細は「評価」欄を参照のこと）						
テキスト						
・テキスト：『やさしい道徳授業のつくり方 改訂版』鈴木由美子・宮里智恵編 溪水社						

- ・小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年 7 月 文部科学省）
- ・中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年 7 月 文部科学省）
- ・授業用配布資料

参考書・参考資料等

- ・『道徳性心理学』日本道徳性心理学研究会編著. 1992. 北大路書房.
- ・『道徳的判断力を育む授業づくり 多面的・多角的な教材の読み方と発問』
高宮正貴・杉本遼. 2022. 北大路書房.

学生に対する評価

授業課題提出（5 点×4 回=20 点）、指導案提出（25 点）、模擬授業（25 点）、
最終レポート（30 点）

授業科目名： 総合的な学習の時間 指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：白神 聖也 担当形態：単独			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習（探究）の時間の指導法					
授業の到達目標及びテーマ						
1. 総合的な学習の時間のねらいと意義、授業の種類・内容や授業方法、評価方法を理解する 2. 総合的な学習の実践例を会得し、自身で授業を創造的に構成できるようになる。						
授業の概要						
総合的な学習の目的、種類、内容、方法、評価を概説し、授業の構成について考察する。指導案の作成などを通じて実践の幅を広げ、新たな授業の創造をして、模擬授業から課題を探る。						
授業計画						
第1回：総合的な学習のねらいと意義 第2回：総合的な学習の目標と種類・内容 第3回：総合的な学習の方法と他教科との関連、教科横断学習 第4回：学習指導要領と指導要領解説 第5回：総合的な学習で取り扱う探究課題、カリキュラムデザイン、条件整備 第6回：アクティブラーニングと指導の視点、総合的な学習の評価 第7回：教材・教具の工夫 第8回：総合的な学習と教師の役割 第9回：資料収集の方法と情報教育・プログラミング学習との関連（ICTの活用を含む） 第10回：プレゼンテーション・報告書作成の指導 第11回：学習指導案の書き方 第12回：小学校の模擬授業の実施と観察 第13回：中学校の模擬授業の実施と観察 第14回：高等学校の模擬授業の実施と観察 第15回：模擬授業の振り返りと授業のポイントと改善点						
テキスト						
学習指導要領（平成29年3月 文部科学省） 学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編（平成30年7月告示 文部科学省）						
参考書・参考資料等						
総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の新展開（朝倉淳、永田忠通 学術図書） 小・中・高等学校 総合的な学習・探究の時間の指導（中園大三郎、松田修、中尾豊喜 学術研究）						
学生に対する評価						
レポート、学習指導案など提出物 60%、期末試験 40% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない						

授業科目名： 特別活動指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：二宮孝司 担当形態：単独			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法					
授業のテーマ及び到達目標						
<p>1) 小学校、中学校及び高等学校の教育課程における特別活動の目標と主な内容を理解している。</p> <p>2) 学級（ホームルーム）活動・児童会活動（生徒会活動）・クラブ活動・学校行事等の個的な活動の構成と評価等についてその重要性を理解している。</p> <p>3) 合意形成の話し合いと討議、意思決定の方法などに関する指導及び集団活動の意義と指導を理解して、例示できる。</p>						
授業の概要						
学校教育における特別活動の位置と意義を理解し、子どもたちの人間関係・社会参加・自立の視点から、学年や各教科との連携・協働並びに地域との連携の視野をもち、自主性を尊重した諸活動を構成するための指導方法に関する必要な知識と素養を身に付ける。その基礎的理論を学ぶと共に事例検討や指導案作成などを実際に行う。						
授業計画						
第1回：特別活動の歴史的な系譜と今日の教育実践における位置と意義						
第2回：教育課程における特別活動の内容構成とその指導の視点						
第3回：特別活動の目的（「望ましい集団活動」等）およびその活動の有する発達的意義						
第4回：特別活動の指導法の基礎（話し合い・討議の意義と方法、自主的態度の育成他）						
第5回：特別活動の実践事例の検討－学級活動（小学校/中学校）ホームルーム（高等学校）						
第6回：授業展開における基礎的・具体的要件						
第7回：指導計画案の作成と分析・評価(1)－学級活動（小学校/中学校）ホームルーム（高等学校）						
第8回：模擬授業と分析・評価(1)－学級活動（小学校/中学校）ホームルーム（高等学校）						
第9回：指導計画案の作成と分析・評価(2)－児童会活動（小学校）、生徒会活動（中学校/高等学校）						
第10回：模擬授業と分析・評価(2)－児童会活動（小学校）、生徒会活動（中学校/高等学校）						
第11回：指導計画案の作成と分析・評価(3)－クラブ活動（小学校）						
第12回：模擬授業と分析・評価(3)－クラブ活動（小学校）						
第13回：指導計画案の作成と分析・評価(4)－学校行事（小学校/中学校/高等学校）						
第14回：模擬授業と分析・評価(4)－学校行事（小学校/中学校/高等学校）						
第15回：まとめとレポート						
テキスト						
折出健二著「教師教育テキストシリーズ 特別活動」（学文社）及び毎回の講義資料によって進める						

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業の振り返り60%、指導案及び模擬授業40%

授業科目名： 教育方法論（小・中・高）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 深澤 悅子 担当形態：単独			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術					
授業のテーマ及び到達目標						
これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法を理解するために、 (教育の方法)						
1. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けての教育方法の在り方を理解する。 2. 教育方法の知見を深めるために、学級・生徒・教員・教室・教材などを歴史的に、実践的に理解する。 3. 学習評価の基礎的な考え方を理解している。						
(教育の技術)						
4. 授業を行う上での基礎的な技術を身につける。(生徒理解、説明、発問、指示、語りかけ、板書方法など) 5. 学習理論をふまえて、学習指導案を作成することができる。						
(情報機器及び教材の活用)						
6. 生徒の学習課題を明確にしたり、学習内容を深めたりすることができる情報機器を活用して、効果的に教材等を作成・提示することができる。						
7. 情報活用能力（情報倫理など）を育成するための指導法を理解する。						
授業の概要						
これからの社会を担う生徒（子どもたち）に求められる資質・能力を育成するための教育方法に関する知見を歴史的に、実践的に理解する。そのために、「教えること」と「学ぶこと」に関して、教育方法の歴史的変遷をふまえ、生徒（子どもたち）が、「主体的・対話的で深い学び」を実現できるような授業構想、指導案作成、情報機器の活用など教育方法の基礎的な技術を理論と実践をとおして学ぶ。						
授業計画						
第1回：教育実践と教育方法						
第2回：子どもたちに求められる資質・能力と主体的・対話的で深い学びについて						
第3回：教育方法の歴史（1）コメニウス、ルソーにおける「教える」ことの技術						
第4回：教育方法の歴史（2）ペスタロッチ、ディースターヴェーク、デューイにおける「教える」ことの技術						

第5回：学力の形成—確かな学力を形成していくために
第6回：学習指導と学習形態、教室環境
第7回：教育的タクト— 授業展開におけるタクト
第8回：授業構想の理論と指導案・板書
第9回：教材開発—教材解釈をとおして、教材、教具の工夫を実践的に学ぶ
第10回：実践的な指導力— 集団指導、媒介的指導、日本のすぐれた教育実践にふれ、授業構成、教師の働きかけなど（小学校・中学校・高校の事例を中心に）
第11回：学習評価の方法
第12回：教育メディア・情報機器を活用した授業構想および情報モラルの育成について
第13回：授業研究と教師の専門性（1）指導案を立案する
第14回：授業研究と教師の専門性（2）模擬授業をする
第15回：授業研究と教師の専門性（3）PDCAサイクルによる授業改善

定期試験

テキスト

- ・毎回、適宜資料を配布します。（その資料をファイリングして一冊の教育方法学の教科書を作成します）

参考書・参考資料等

文部科学省『小学校 学習指導要領』

文部科学省『中学校 学習指導要領』

文部科学省『高等学校 学習指導要領』

『授業観の変革』吉本均（明治図書）、『教室の人間学』吉本均（明治図書）

学生に対する評価

レポート及び提出物 40% 試験 60%

授業科目名： ICT活用の理論と実践	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：二宮孝司 担当形態：単独			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法					
授業のテーマ及び到達目標						
<p>1. 情報通信技術の活用の意義と理論を理解する。</p> <p>2. 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。</p> <p>3. 児童、生徒に情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。</p>						
授業の概要						
情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童、生徒に情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。						
授業計画						
第1回：情報通信技術の活用の意義と教師の役割						
第2回：学校におけるICT環境の整備と校務の推進における情報通信技術の活用						
第3回：遠隔・オンライン教育の意義と情報モラル						
第4回：情報活用能力の実際①（学習場面に応じた指導事例 デジタル教科書、デジタルコンテンツ等）						
第5回：情報活用能力の実際②（情報通信機器の基本的操作）						
第6回：情報活用能力の実際③（情報通信機器の応用）						
第7回：情報通信技術を活用した授業における学習指導案の作成						
第8回：模擬授業（電子黒板、小型教材提示装置、タブレット等の活用）						
定期試験						
テキスト						
稻垣忠、佐藤和紀 編著「ICT活用の理論と実践」（北大路書房）						
文部科学省「小学校 学習指導要領」						
文部科学省「中学校 学習指導要領」						
文部科学省「高等学校 学習指導要領」						
毎回の講義資料によって進める						
参考書・参考資料等						
なし						
学生に対する評価						
定期試験70%、授業の振り返り・模擬授業30%						

授業科目名： 生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森下（村上）真実 担当形態：単独			
科 目	道徳・総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 					
授業のテーマ及び到達目標						
<p>(1) 生徒指導および進路指導・キャリア教育の目的や方法、生徒が置かれている生活現実や問題状況等、教諭を目指す上で基本的な事項について説明することができる。</p> <p>(2) 生徒指導および進路指導・キャリア教育の目的や方法、生徒が置かれている生活現実や問題状況等を踏まえて、生徒にどのように向き合うべきかを考えることができる。</p> <p>(3) 教諭を目指す立場から、生徒指導および進路指導・キャリア教育に関心をもち、積極的にその方法を考えることができる。</p>						
授業の概要						
生徒指導および進路指導・キャリア教育の目的や方法等についての認識を深めながら、実際に教諭として生徒指導および進路指導・キャリア教育を行なうまでの考えを深める。						
授業計画						
第1回：生徒指導、進路指導、キャリア教育の意義と課題						
第2回：生徒指導、進路指導、キャリア教育の基礎となる理論						
第3回：教育課程と生徒指導、進路指導、キャリア教育の位置づけ						
第4回：学校における生徒指導、進路指導、キャリア教育体制						
第5回：生徒指導、進路指導、キャリア教育の方法、関係機関との連携						
第6回：青年期の発達の特徴						
第7回：生徒理解の方法						
中間確認試験実施						
第8回：発達障害の理解						
第9回：生徒指導のすすめ方（1）～組織的体制の在り方と教員の役割						
第10回：生徒指導のすすめ方（2）～学級経営・ホームルーム経営、安全教育						
第11回：生徒の抱える問題とその対応、関係機関との連携						
第12回：進路指導、キャリア教育のすすめ方（1）～組織的体制の在り方と教員の役割						
第13回：進路指導、キャリア教育のすすめ方（2）～ガイダンスの機能を生かした教育						
第14回：進路指導、キャリア教育のすすめ方（3）～ポートフォリオの活用						
第15回：進路指導、キャリア教育のすすめ方（4）～カウンセリングとしての指導						
単位修得試験実施						

テキスト

『生徒指導提要』（平成22年 文部科学省）

『教師教育講座 第10巻 生徒指導・進路指導論』（森田 愛子（編）、協同出版）

参考書・参考資料等

『小学校学習指導要領』（平成29年3月 文部科学省）

学生に対する評価

中間試験50%， 単位修得試験50%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 尾形明子 担当形態：単独			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法					
授業のテーマ及び到達目標						
<p>本授業では、幼児、児童および生徒が自己理解を深めたり、好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育むと同時に、個々の幼児、児童および生徒の発達状況や心理的特質、および教育的課題を適切に捉え、個性の伸長や人格の成長を支援するために必要な教育相談の基本的な知識と技能（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身につける。</p>						
授業の概要						
<p>学校等の教育現場では、不登校（園）やいじめ、非行・反社会的行動、発達障害といった子どもたち（幼稚園児・小学生、中学生、高校生）の示す不適応問題や、近年始まった特別支援教育のなか、さまざまな課題が山積している。こうした状況で、本授業では、教師として子どもたちの発達や個性を尊重しながら、どのような効果的支援が可能なのかについて、自ら考え、実践していくための基本的な知識と技能を身につけさせる。具体的には、幼児、児童および生徒の抱える課題（問題）を適切に把握し、支援していくための知識や、傾聴を基盤としたカウンセリングに関する知識および技能、保護者への援助のあり方、教師間の校内協力体制や他機関（校外の専門機関）との連携、教師自身のメンタルヘルスの維持などについて、学校教育現場の実情を踏まえて講義（演習を含む）を進めていく。</p>						
授業計画						
第1回：教育相談とは（教育相談の意義と課題）						
第2回：教育相談とは（教育相談の実際）						
第3回：子どもの心の問題に関する精神医学的知識						
第4回：不登校の理解と対応						
第5回：いじめ問題の理解と対応						
第6回：開発的教育相談（いじめ問題の未然防止も視野に入れて）						
第7回：非行・反社会的行動の理解と対応						
第8回：習癖異常の理解と対応（非社会的行動を含む）						
第9回：校内での協力体制（チーム学校のあり方）						
第10回：他機関との連携（危機対応も含む）						
第11回：発達障害の理解と対応						

第12回：保護者に対する援助

第13回：カウンセリングの理論と実際1（理論編）

第14回：カウンセリングの理論と実際2（実際編）

第15回：教師のメンタルヘルス第3回：

定期試験

テキスト

教科書「教師教育講座第11巻 教育相談 改訂版」（石田弓編著、協同出版）

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する

学生に対する評価

授業への参加態度（10%），課題レポートへの取り組み（40%），定期試験の成績（50%）

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習 (幼・小・中・高)	単位数：2単位	担当教員名：佛圓弘修、二宮孝司		
科 目	教育実践に関する科目			
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2) ×
受講者数82名(編入学者を含む)を4グループ(1グループ20名前後)に分けて実施				
※第2回～第14回の講義について、2名の教員が各2グループを担当する。各教員は、担当の2グループに対し、1グループごとに講義を実施する。				
教員の連携・協力体制 担当者が事前に話し合い、到達目標や評価の観点を明確化し内容を共有して進めていく。教育現場での実際を企画・構成させ演習を繰り返させるなかでその都度履修カルテにより内省させ実践的力量を育成していく過程を複数の担当教員で役割分担し連携協力して行う。				
授業のテーマ及び到達目標 履修カルテでこれまでの学びを振り返り、①教師としての使命感、責任感、教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③児童・生徒理解や学級経営、④保育活動、各教科・教科外活動における指導力、以上4つの項目を中心に、課題を自覚し必要に応じて不足している知識・技能を補いその定着を図り、課題解決をし、教師としての基礎的専門的力量を高め、教育現場に臨む準備をする。				
授業の概要 本授業は、保育士・幼稚園・小学校及び中高教員を志し4年間学んできた大学での学びの集大成として位置づくものである。対人援助職としての自己課題を明確にし知識・技能を総合的にとらえて修得し実践的な力の獲得をめざして教職生活を円滑にスタートできることをめざすものである。現場での実務経験をもつ担当教員が学級づくりや授業づくりを切り口に教職実践の具体的方法を探究させる。				
授業計画 第1回：オリエンテーション（担当：佛圓弘修、二宮孝司） 第2回：学びの履歴の振り返り：履修カルテ及び実習の振り返りと自己評価（クラス分け） 第3回：学校に関する学習の振り返り：グループ討議、自己課題の明確化（クラス分け） 第4回：子どもに関する学習の振り返り：グループ討議・自己課題の明確化（クラス分け） 第5回：教育技術に関する学習の振り返り：グループ討議・自己課題の明確化（クラス分け） 第6回：教師に関する学習の振り返り：グループ討議・自己課題の明確化（クラス分け） 第7回：教材研究の方法：研究授業の主体的参加に向けて（クラス分け） 第8回：学習指導案と学級経営案の作成：研究授業の主体的参加に向けて（クラス分け） 第9回：模擬授業：研究授業の主体的参加に向けて（クラス分け） 第10回：研究授業参加：幼稚園の研究授業参加（クラス分け） 第11回：研究授業参加：小学校の研究授業参加（クラス分け） 第12回：研究授業参加：中学校の研究授業参加（クラス分け） 第13回：研究授業参加：高等学校の研究授業参加（クラス分け） 第14回：研究授業・協議会の振り返り・討議・ワークシート作成（クラス分け） 第15回：履修カルテの完成と授業の振り返り（担当：佛圓弘修、二宮孝司）				

単位修得試験は実施しない。

テキスト

保育所保育指針（厚生労働省）、幼稚園教育要領（文部科学省）、小・中・高等学校学習指導要領（文部科学省）など

参考書・参考資料等

資料は適宜配布する

学生に対する評価

履修カルテ50%， 授業内課題レポート等50%

※ 1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※ 2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。